

この60年を振り返る その4

平成8年度から16年度まで9年間、教諭として、2度の学年担任と、最後は2年間の教務主任を経験し、平成17年度から福島県教育庁に勤めることとなり、福島市に一家で転居しました。上の女の子は福島第四中学校に、下の男の子は森合小学校に転校となりました。上の女の子は、転校にとっても抵抗しました。段ボールの家でもいいから私はここから動かないといったものです。それでもなんとか、日を過ごすにつれ、陸上部での大会参加などを通じて、福島になじんでいき、ほっとしたのを思い出します。

三年間の後、橘高等学校の教頭として勤務し、その後再び、福島県教育庁に戻ります。忘れもしない東日本大震災があったのは、その年度も終わろうとしていた3月11日です。震災後は、自治会館の8階に居所を移し、毎日、福島県下の小学校児童と中学校・高等学校の生徒の生命の確認と、その報告が日課となりました。県庁の仮設トイレが日に日に非衛生的になり、飲み物や食べ物も滞る中、妻と子供を妻の実家の静岡に避難させ、あっという間に1か月の時間が経過しようとしている中、同じような地震がもう一度県内を襲い、磐城農業高校の女子生徒がなくなったのを知り、大きな衝撃を受けました。この地震は止まるのか続くのかという大きな不安が襲ったのを思い出します。

学校再開に合わせて、妻と子供が静岡から戻る中、放射能対策が人々の気持ちを重くし、マスクを外すことのない日々となりました。

父親の肺がんが判明し、父母二人で生活するいわきに毎週土日に帰る中、何度か入院し、何度か退院し、父親が労災病院の緩和ケア病棟に入院する中、12月の暮れも迫ったころ亡くなりました。この1年の時間は、今でもどのように過ごしたのかよくわからない1年です。

その後、3年ほど教育庁勤務が続き、勿来高校の校長として赴任するのは平成26年です。2年間の後、もう一度福島に戻り、高校教育課長を2年務め、平成30年に磐城高校に戻るようになりました。

2年間はあっという間でした。磐城高校での時間は、とても楽しく、土日や長期休業中もほとんど学校に来ていたので、来年度から行くところがなく途方に暮れるでしょう。その時には、学校に来て、部活動の諸君とともに時間を過ごしましょうか。部外者なので、それもかなわなくなるでしょうか。

その時は、ヤリス5405にでも乗って、日本のどこかに出かけましょうか。私を待っている人がきっと日本のどこかにいるでしょう。そういえば、畑の草むしりや田んぼの草刈りもしなければなりません。暇にはなりませんね。